秋田県男女共同参画情報誌【ラ ヴィータ】

La Vita

ラ ヴィータ：イタリア語で“生命・人生・生活”

vol77
2011.7.31

特集

ひろがる、女性の参画！

ラ ヴィータな人々
～育休をとった男たち～

いきいきクローズアップ
「秋田県国際交流をすすめる女性の会」

男女イキイキ職場訪問
「秋田ファイブワン工業株式会社」

知ってるつもり!?
イマドキの男女共同参画
「防災と男女共同参画」

いんふぉめーしょん
男女共同参画県民防災フォーラム
「地域防災 不安をちからに」を実施しました！！
～秋田県中央男女共同参画センター開設10周年記念事業～

ひろがる、女性の参画！

特集❶

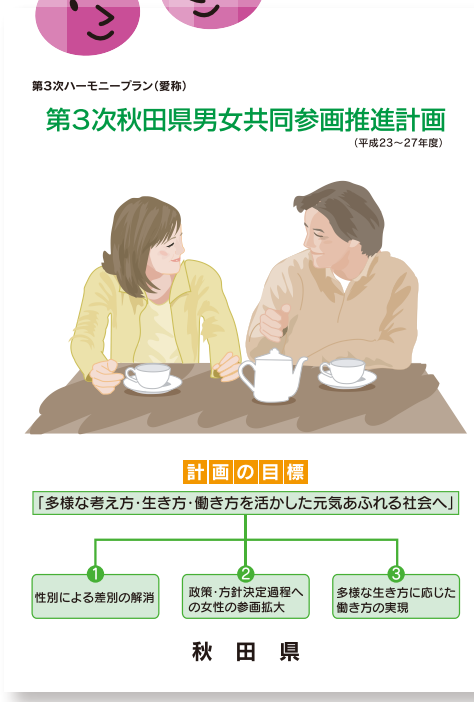
女性の笑顔は家族の元気、地域の活力

グリーン・ツーリズム西木研究会（仙北市）を訪問して

代表／藤井けい子さん

第3次秋田県男女共同参画推進計画（愛称：第3次ハーモニープラン）がこのたび策定され、平成27年度までの5年間、この計画に基づいて秋田県と県民が一体となって取り組み、推進していきます。

今回の計画では、3つの大きな目標を掲げています。今年度のLa Vitaは、これらの目標に合わせたテーマで皆様に情報を提供し、ともに考えていきたいと思います。



農家民宿「くりの木」／佐々木弘子さん

秋田の笑顔代表に

県庁の入り口や道の駅のポスター、冊子の表紙に新聞の全面広告に登場するお母さんたち。県が展開している「東北の元気回復プロジェクト『ニッポンの笑顔』秋田から！」のイメージモデルになった「グリーン・ツーリズム西木研究会」の女性たちです。

「あや、しかたね。どでんした（驚いた）で～！」と笑いながら話すのは、仙北市西木町で、東北の農家民宿第一号でもある「泰山堂（たいざんどう）」を営む藤井けい子さん。彼女をリーダーに、それまで取り組んでいた農業体験をメインとして、観光と農業のコラボレートを提案するグループが発足したのは平成10年のことです。

それまでは旅行といえば団体でバスでの移動が主流でしたが、少しずつ家族や小さなグループでの旅行に変わってきました。ヨーロッパでは早くから提唱されていた「グリーン・ツーリズム」が日本にも入ってきたころです。

女性が責任を持てる農業を

藤井さんのお母様は「女性も自分の財産を守るべきだ」という信念を持ち、自分の田んぼを所有していました。その意識が継承され、藤井さんは「泰山堂」を自身の名義で建設しました。そうすることによって、経営にも責任が持てるようになり、取り組む気持ちが大きく違ってくると言います。藤井さんは周囲の女性たちにも、民宿経営を女性の名義で始める

ことを勧めています。また、近隣地域に複数の農家民宿ができることで、チームの意識が芽生え、ひとりで頑張らなくてもいいという安心感が生まれます。現在、西木地区には県内でも珍しく、7軒もの農家民宿が集まっています。

「グリーン・ツーリズムは、女性が力を発揮できるいいチャンス。せっかく一生懸命やっているんだから形に残そうという意識と、自分のものなんだから頑張らねばね、という責任が生まれ、自分で判断できるようになる。それに、お母さんが元気だとお父さんも頑張ってくれるし、理解してくれるから。」

被災者支援の取り組み

仙北市には女川町から多くの方が一時的に避難して来ています。心も身体も疲れているだろうから、少しだけのんびりしてもらいたいと、会員宅で農業体験をしてもらうことにしました。

門脇昭子さん・富士美さん親子が経営する農家民宿「星雪館」では、小豆の植え付けやほうれん草の収穫を体験。参加した女性は「働けることが嬉しい。土に触れ、作物を収穫できることが幸せ」と話していました。

野菜や山菜をふんだんに使った昼食をいただきながら、漁師をしている男性がぽつりぽつりと地震当時の様子を話してくれました。

地震が起きたときは漁の最中。揺れが治まるのを待って岸へ戻ると、今度は津波が押し寄せてきます。岩場を駆け上がろうとするものの、足元から岩ががらがらと崩れ、波はどんどん近づいてきます。男性は下がっていた藤の蔓につかまって、何とか避難。その後、家族や近所の人に「走れ！」と促され、高台へ逃げようとしますが、水の勢いは早く、胸まで水に浸かりました。漁のために身に着けていた衣服が守ってくれたと言います。言葉にはできないほどの恐怖が伝わってきました。

フキの皮むきに挑戦（農家民宿「くりの木」）

ほうれん草の収穫（農家民宿「星雪館」）

そば打ち体験を行ったのは、自宅を開放した農家のそば屋「一助」のご主人の澤山純一さんがそばの打ち方を指導、そのあと妻の節子さんと一緒にゆでます。

「今は目の前にがれきが見えないから、笑顔にもなれるし明るくいられる。あの場所に戻るのはつらいけど、十分リフレッシュさせてもらったから、頑張れると思う。もし、仙北市に何かあったら、今度は私たちが全力でお手伝いする」と語った女性の言葉が印象的でした。そして「女川に戻ったら、そば打ってあげるって約束したの」と真剣にメモをとっていました。

そば打ちを習う（農家のそば屋「一助」）

「グリーン・ツーリズム西木研究会」では、今後もさまざまな形で、農家民宿のみならず、一般の農家も巻き込んで、観光客や地域住民との連携を図っていきたいとしています。西木の元気なお母さんたちは、女性のパワーでさらに新たなことにチャレンジして、笑顔の輪をどんどん広げていくことでしょう。

特集2

秋田ならではの男女共同参画をめざして

国立大学法人　秋田大学
男女共同参画推進室（コロコニ）室長／渡部育子さんに聞く

渡部先生（中央）を囲む男女共同参画推進室スタッフ

雪の中から春を知らせるふきのとうのように

秋田大学では、平成17年2月に「男女共同参画推進専門委員会」を設置しました。以来、実施してきた様々な取り組みを元に、平成20年3月に「秋田大学男女共同参画推進のためのアクションプラン」を策定しました。

このプランでの重点項目は、女性教員の比率向上のポジティブアクションと教職員のワーク・ライフ・バランスの実現。そして、このための中心的推進機関として、平成21年5月に開設されたのが男女共同参画推進室です。コロコニという愛称は、秋田県の花「ふきのとう」のアイヌ語です。

仕事と生活の両立のために

本学では、約二千人の教職員が、様々な雇用形態で勤務しています。自宅看護が困難な時、安心して預けられる場所があれば」との声に応えて、平成22年4月に、病児・病後児保育室「ことりのおへや」が誕生しました。

また、育児や介護、働き方などの悩みに、職員や研究者が気軽に安心して相談できる支援相談窓口「コンシェルジュ・デスク」があります。

さらに、休業制度や手当の活用には、コロコニガイドブック。妊娠・出産、育児、介護など、利用できるさまざまな制度をわかりやすく紹介していて、教職員に好評なんですよ。

そして何より仕事と生活の両立は私たち推進室から。紹介だけではなく実践が大切と、昨年度スタッフ5名全員が有給休暇を完全取得しました。両立の一歩と考えています。

未来の研究者に大人気！

理工系の研究分野は女性が少ないと言われていますので、次世代の女性研究者の育成は欠かせません。このため、平成21年に講座「あなたも、もしかしたら工学女子？」、翌年に講座「親子でサイエンス」を実施しました。

「面白かった！」「不思議だった」の声が聞かれ、会場は大興奮。女性研究者の裾野を広げ、これからの秋田を担う人材育成のためにも、ぜひ続けていきたい取り組みです。

国際シンポジウムから学ぶ

グローバルな視野での意識啓発のため、ノルウェーやドイツから講師を招いて講演会を実施し、各国の取り組みを紹介しました。

ノルウェーは男女共同参画の先進国として有名ですが、実は今でもまだ男女の賃金に格差が残っているそうです。やはりこうしたことは、国際ランキングを見ているだけでは、わからない。実際に話を聞いて初めて伝わることもあるのです。

そして大切なのは、このようにして視野を広げ知識を持ったうえで、我が国の文化・風習にあった男女共同参画を進めること。そのために、地域のロールモデルとして、今後も一歩一歩前進していきたいと考えています。

様々な講演で活躍する渡部先生
写真は大学間連携合同シンポジウムにて

シリーズ［第16回］育休を取った男たち

「家族の絆をつむいだ4ヶ月」

阿部　善博（よしひろ）さん（33歳）
株式会社五洋電子（潟上市）に勤務
平成22年11月29日～平成23年3月31日　育児休業取得

育休は妻からの提案

3人目の子ども（次女）の誕生を機に、約4ヶ月間の育児休暇を取りました。きっかけは、妻の提案でした。育休を取る男性社員も今までいなかったし、長期の休みという不安もありましたが、妻が制度について詳しく調べてくれたこともあり、思い切って申請しました。理解と協力をしてくれた上司や同僚にとても感謝しています。

日々の成長を肌で感じる

私が担当したのは家事全般と上の子の入園・入学準備です。長男長女が産まれた時にも、子育てには参加していたつもりでしたが、子ども達とこんなに時間を過ごしたのは今回が初めてでした。

料理は得意なので、たまには手のこんだメニューにも挑戦し、家族にも喜ばれました。また、育児であらためて大変だと感じたのは、「うんちが臭い」こと。毎日のことだとわかっていながらも、背中まで汚してしまった時は「ひとりで対処するのは難しい！」と痛感しましたね（笑）。

毎日赤ちゃんに接していると、成長の様子がよくわかるんです。娘が初めて笑った瞬間に立ち会えたのには感動しました。育休が終わる頃には、抱っこをしながら足の痛みを覚え、娘が大きくなったのを実感できました。

子ども達の相手を中心に

育休中は、「ママを取られた気持ち」が強い分、甘えられる父親がそばにいられるよう、上の2人と一緒に過ごす時間を大切にしました。前よりも親子の絆が強くなったように感じます。

「もし育休がなければ、どんなに大変だったことか」と妻は言います。ひとりで3人の小さな子どもの面倒をみるのは、至難の業。夫婦で家事・育児をすることで、妻の負担を少しでも軽くすることができたのではないでしょうか。そして、今後も私ができる事はすすんでサポートしていきたいです。

NC設計部　三浦重光部長からのひとこと

当社では、女性社員はほぼ全員が育児休暇を取得していますが、阿部君から相談された時は、初めてのケースだったこともあり「男性も休めるんだ！」と思ったのが正直な気持ちです。

長期出張が多い部署なので、欠員分のフォロー体制が常にできていることや、昨年から職場復帰後の不安を解消するために、会社の状況を自宅で把握できるネットワークパソコンを貸与する制度が整ったこともあり、休暇中も安心して育児に専念できたのではないでしょうか。仕事の情報を共有したり、「育児レポート」が送られてきたり、うまくコミュニケーションをとる事ができました。

仕事の基本は私生活にあると思います。時には家庭を優先する事も大切。今後、子育てを経験する男性社員にとって、阿部君の育休はいいきっかけづくりになったはずです。

県からのお知らせ

仕事と育児・家庭の両立支援に取り組む企業を応援します！ パート1

現在、県では、労働者のライフステージに応じた柔軟な働き方や休暇・休業の取得がしやすい職場の実現に向けて、仕事と育児・家庭が両立できる環境づくりに取り組んでいる企業に、奨励金を支給しています。

【育児・介護等離職者再雇用奨励金】
結婚、出産、育児、介護等による退職者を同一の企業が再雇用した場合に事業主に支給します。

（1）正社員での再雇用	1人につき 50万円
（2）正社員以外での再雇用	1人につき 30万円

※県内に事業所がある常時雇用労働者300人以下の雇用保険適用事業所であることなど、他にも必要な要件があります。

支給要件や申請方法など、詳しくは秋田県少子化対策局（018-860-1249）まで

いきいき クローズアップ CLOSE UP

「秋田県国際交流をすすめる女性の会」（略称「わぴえ」）

ミニハンドinハンド　さよなら2010

と、稲場みち子会長。

同会は〝国連婦人の10年〟を契機に１９８５年、県内女性が集まり、国際化にふさわしい開かれた地域社会づくりを願って発足しました。以来、◆年度別テーマ学習◆〝時の人〟による話題提供の「わぴえトーク」◆料理をはじめ世界の生活文化を相互に紹介する「生活相互理解講座」◆留学生と会員の家族的な交流「わぴえパートナー」◆使用済み切手や書き損じはがき等の回収による「わぴえポスト・海外医療活動への支援」など、異文化学習、異文化コミュニケーション、そしてボランティア活動などを行っています。

生活相互理解講座（2008）

ハンセン病のジャズトランペッターの生き方を描いた、映画「ふたたび」の上映会。今年４月、秋田市で開催し、一般市民を含む４８０人が鑑賞、好評を得ました。

「四半世紀にわたって活動してきましたが、会員の高齢化や減少、組織の改編を余儀なくされたもので、昨年度から総会で他団体と連携して一緒に映画を観る研修会を催しています」

一昨年には、「わぴえ―25周年を迎えて―ふりかえりと新たなであいを」と題して、記念講演会の開催や記念誌を発行しました。

稲場会長は、「歴代の会長・会員の篤（アツ）き思いで、活動を続けてこれました。わぴえでの学びや外国の方々との交流は、自分の心のバリアに気づき、違いを受け入れる練習となり、手を携えて生きる〝わぴえパートナー〟の精神をつくってくれました。これを財産に、これからは成熟期に入ります。常に地球市民の一人という視点をもちながら〝活動即生活〟と思って、会員のライフスタイルに合わせた草の根交流活動を続けていきたい」と語っています。

あきた国際フェスティバル（2010）

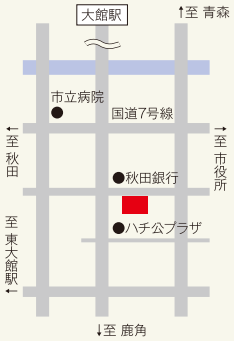
秋田県国際交流をすすめる女性の会　会長：稲場みち子　会員数：166名　事務局：秋田市広面字大巻63-1 TEL.018-835-7771（小松）

あなたの街の
男女共同参画センター

北部男女共同参画センターでお待ちしています！

センターは、性別に関わりなく、その人らしい生き方ができる男女共同参画社会実現のために、県が設置した施設です。交流サロンや研修室も利用できます。どうぞ気軽にお立ち寄りください！

〒017-0842　大館市字馬喰町48-1　TEL.0186-49-8552
開館時間／平日：午前9時～午後9時／土・日・祝日：午前9時～午後5時
休　館　日／毎週木曜日、12/29～1/3
※節電・停電等により、開館時間を縮減している場合があります。事前に電話などで御確認ください。



男女イキイキ！

職場訪問

秋田市にある「秋田ファイブワン工業株式会社」におじゃまします。

秋田ファイブワン工業株式会社は、紳士服、婦人服を製造している会社です。従業員数は、女性87名、男性17名、合わせて104名。全国のおしゃれな人たちのため、黙々と制作に励む皆さんは、まさに職人のようです。

女性の多い職場ですから、出産、育児を通して仕事を続けられるよう工夫しているんですと話す佐賀善美社長。総務の相庭舞さんに詳しく伺いました。

まず、身近で丁寧な相談窓口があるということ。「これは、いい！」と感心したのは、「出産を控えた方へ」という手作りのリーフレット。産前、出産、育休、復帰といった場面毎に知っておきたい手続きがわかりやすく書かれていて、暖かさが伝わりました。

次に、働き方に柔軟な対応をしているということ。子育て期間は、フルタイムからパートタイムへと時間短縮できる。従業員のことを大切に考えた対応です。

そして、最後に多能工化を進めるということ。これにより、本人にとっては、能力が高くなり、働き続ける意欲と自信に繋がる。一方で、会社にとっては、従業員のレベルアップ、生産性の向上に繋がる。そして、急な休みでも助け合える環境が生まれるため、安心して働ける職場づくりに繋がっている。働きやすい職場であることこそが、長く働いてもらうために必要なことと話していました。

これからも、男性も女性も共に働き続けるイキイキ職場であって欲しいなと思いました。

知ってるつもり!?

イマドキの男女共同参画

この度の東日本大震災により被災された皆様には心よりお見舞いを申し上げます。

3.11の出来事を境に、「地域や家族とのつながり」「防災に対する意識」など、さまざまな事について価値観を見直すようになった方も多いのではないでしょうか。

日本では、平成16年の「新潟県中越地震」を機に「災害と女性」について本格的に取り上げられ、翌年の「男女共同参画基本計画」の中に「防災、災害復興」が新たな取り組みの必要な分野として盛り込まれるようになりました。

男女共同参画の視点で考える防災とは何かー。始まったばかりの復興にはまだ時間を要しますが、3.11における女性の視点を生かした避難所での好事例をいくつかご紹介します。

“防災と男女共同参画”

避難所で反映された男女共同参画

「女性専用スペース」の設置

◎情報の提供や交換、相談の場
◎湯沸かし、着替え、授乳、化粧などをする場所

被災者支援のための雇用の創出

◎避難所での炊き出し、遺品や写真の洗浄をする人を役場で募集・雇用

女性や子育てに配慮した避難所の設計

◎間仕切りの設置や土足厳禁エリアの徹底
◎乳幼児のいる家族だけが滞在する部屋の設置
◎女性専用の物干し場や男女別の入浴所・更衣室の設置
◎女性や子どもがひとりでトイレにいかないように注意喚起

女性のニーズ等を反映した避難所の運営体制等

◎避難所内での女性リーダー会議を実施

…など。

参考：内閣府男女共同参画局「東日本大震災における女性の視点・ニーズを反映した避難所での好事例」

編集・発行／秋田県生活環境部男女共同参画課
〒010-8570 秋田市山王四丁目1番1号 TEL.018-860-1556 FAX.018-860-3895 http://www.pref.akita.lg.jp/（美の国あきたネットのトップページ）

連載♪

まいちゃんの素朴な疑問

「いざとなれば」── 今、この瞬間にも
その時は来るかもしれません。
日頃の行動を大切に──。

いんふぉめ～しょん

男女共同参画県民防災フォーラム「地域防災 不安をちからに」を実施しました!!

～秋田県中央男女共同参画センター開設10周年記念事業～

災害時の不安をいかに地域防災力に繋げていけばよいのか、日頃から共に支えあう防災のあり方を考えるため、平成23年6月23日、アトリオン音楽ホールにおいて、男女共同参画県民防災フォーラムを開催しました。中央男女共同参画センターが開催したこのフォーラムはオープニングの合唱で始まり、続いて行われた講演やパネルフォーラムを通して地域防災について共に考えました。

始めに、「地域協働で進める結果防災のまちづくり」と題して、秋田県立大学木材高度加工研究所准教授の渡辺千明さんが話題提供し、普段の活動やネットワークづくりこそが災害時に活かされてくると話し、続けていくこと、一人ひとりが協力して取り組むことが大切と話しました。

次に、秋田大学准教授の川畑智子さんがコーディネーターとなりパネルフォーラムを実施しました。仙台市で自らも被災した大久さん、子育て支援サークル代表小玉さん、元北秋田市議会議員小塚さんそして、県男女共同参画課元野さんらによって、それぞれの立場から、東日本大震災の体験を通しての意見などを述べ合い、防災にはこれまで少なかった女性のリーダーシップや地域参画が大切であると話し合いました。

編集後記

今年度の特集では、秋田県の「第3次ハーモニープラン」をよりわかりやすく、身近な視点でご紹介していきます。また「ラヴィータな人々」「いきいきクローズアップ」もコーナーを拡大。読みやすい誌面づくりを心がけたいです。

（伊藤　美生）

La Vitaの取材を通じて、いろいろな方々に出会い、原稿をまとめてゆく時に、活字にはならなかった背景を想像します。短い文章に最終的にはなるのですが、少しばかり皆様に紹介し、知っていただくことで、何かの「きっかけ」等に繋がれば、と思っております。

（渡部　哲也）

「La Vita」を読んでの“ご意見・ご感想”をお寄せ下さい。お待ちしています。

秋田県生活環境部男女共同参画課　〒010-8570　秋田市山王四丁目1番1号
TEL.018-860-1556　FAX.018-860-3895　E-mail:persons@pref.akita.lg.jp